

『第二言語としての日本語の習得研究』
Acquisition of Japanese as a Second Language

投稿規定

本誌では、以下の要領で論文を一般公募します。
新たな視野からの日本語習得研究の発表の場として、是非ご投稿ください。

1. 投稿資格

資格は問わない。(第二言語習得研究会は会員組織ではないので、誰でも投稿できる)

2. 投稿可能な論文

第二言語としての日本語の習得に関する論文で、未発表のもの。

次の論文は、未発表論文とし、本誌への投稿を受け付ける。

- ・他の雑誌に投稿、公刊していないもの
- ・学会・研究会予稿集に掲載したもの
- ・科学研究費報告書に掲載したもの
- ・未公刊の博士論文・修士論文の一部

次の論文は、未発表論文とせず、本誌への投稿は認めない。

- ・他の学会誌や協会誌に掲載したもの、投稿中のもの
- ・大学・学部・研究室の紀要等に掲載したもの
- ・市販雑誌に掲載したもの
- ・学会の *proceedings* など、会のあとで本にまとめられたもの

※剽窃、及び二重投稿は、厳にこれを慎むこと。発覚した際には投稿を無効とする。

3. 使用言語

日本語および英語とする。

4. 論文の種類

- (1) 一般研究論文：著者のオリジナルな研究をまとめたもの。追究する研究課題の価値を当該研究分野に位置づけた上で、妥当性のある方法によって結果を報告し、十分な考察を加えることが求められる。
- (2) 事例研究論文：実践的な研究および試行的な研究をまとめたもの。報告する価値のある研究課題や実践について、妥当性のある方法によって、結果を報告することが求められる。
- (3) 展望論文：ある特定分野の最近の研究動向、今後の展望を著者の観点からまとめたもの。複数の論文を紹介するだけのものは展望論文とはしない。

5. 提出書類および様式

- ・A4版横書き原稿のMS Word及びPDFファイルを別紙と共にメールに添付して送付すること。
- ・別掲の投稿書式に従って執筆すること。(採択された際には、別途詳細な本誌書式を送付する)
- ・規定枚数 (一般研究論文と事例研究論文は18枚、展望論文は21枚) 厳守で執筆すること。

募 集 情 報

- ①原稿（以下の項目を以下の順序で、38 字×35 行×18 枚（展望論文は 21 枚）以内で整える。
全てのページにページ番号および行番号（連続番号）を付ける）

日本語論文

論文名
執筆者名および所属
要旨（400 字以内）
キーワード（5 項目以内）
本文（図表，注，参考文献，資料を含む）
英語要旨（規定枚数内の最後の 1 ページ全てをこれに当てる）
論文名
執筆者名および所属
要旨（200 語以内）
キーワード（5 項目以内）

英語論文

論文名
執筆者名および所属
要旨（200 語以内）
キーワード（5 項目以内）
本文（図表，注，参考文献，資料を含む）
日本語要旨（規定枚数内の最後の 1 ページ全てをこれに当てる）
論文名
執筆者名および所属
要旨（400 字以内）
キーワード（5 項目以内）

- ②別紙（以下の項目を，原稿とは別ファイルに記載する）

論文の種類，論文名，執筆者名，所属機関，連絡先（住所，メールアドレス）
謝辞・クレジット等（審査の段階では本文には記さないこと）

6. 掲載原稿の著作権について

掲載原稿については，著作権のうち，複製権，翻訳・翻案権，公衆送信・伝達権を第二言語習得研究会に無償で譲渡することとする。ただし，執筆者本人は，第二言語習得研究会の許諾を得ず，掲載原稿の複製，翻訳・翻案，公衆送信・伝達を行うことができる。

7. 投稿締切り

次号（第 24 号）掲載分は，2021 年 1 月 31 日（日本時間 23 時 59 分必着）を締切りとする。

8. 送付先

第二言語習得研究会 ジャーナル委員長 奥野由紀子 E-mail : jasla.journal.23.24@gmail.com

『第二言語としての日本語の習得研究』
Acquisition of Japanese as a Second Language

投稿書式

1. 原稿の書式

- ・ A4 版横書きワード原稿，38 字×35 行，余白：上下 30mm，左右 25mm
- ・ 日本語用フォントは MS 明朝，英数字用フォントは Times New Roman

日本語論文

論文名：14 ポイント（以下，14pt）（論文名の上を 2 行空ける）

執筆者名および所属：12pt

要旨：10pt（400 字以内，「要旨」という語の後に改行して記述）

キーワード：10pt（5 項目以内）

本文：12pt

図表中の文字：9pt 以上（タイトルは 10pt）

注：10pt

参考文献：10pt

英語要旨

論文名：14pt（重要語句の先頭を大文字にする）

執筆者名および所属：12pt

要旨：10pt（200 語以内，‘Abstract’ という語の後に改行して記述）

キーワード：10pt（5 項目以内）

英語論文

論文名：14pt（重要語句の先頭を大文字にする，論文名の上を 2 行空ける）

執筆者名および所属：12pt

要旨：10pt（200 語以内，‘Abstract’ という語の後に改行して記述）

キーワード：10pt（5 項目以内）

本文：12pt

図表中の文字：9pt 以上（タイトルは 10pt）

注：10pt

参考文献：10pt

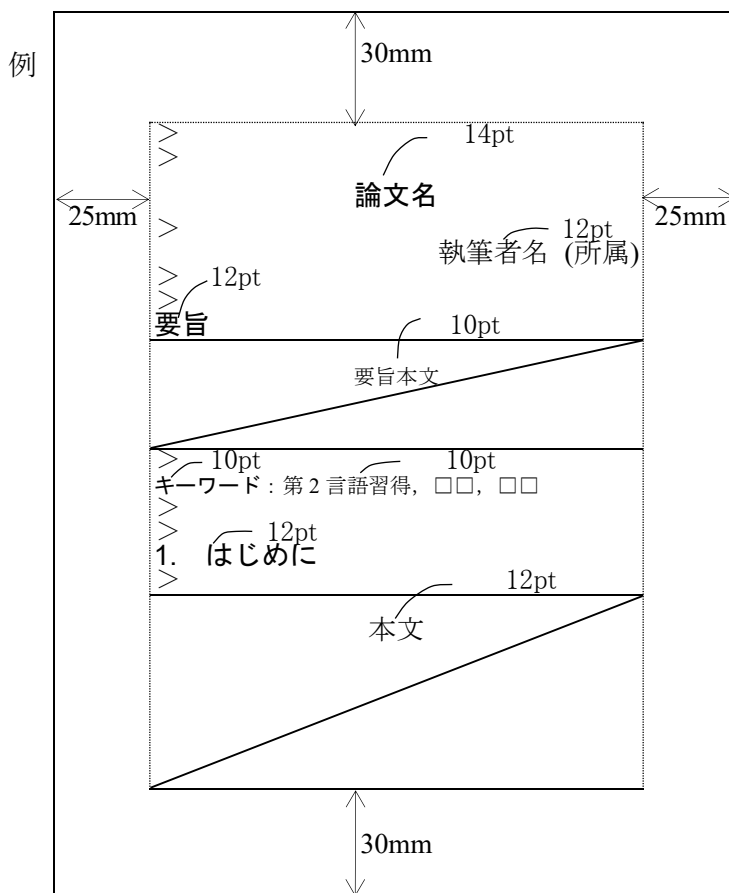
日本語要旨

論文名：14pt

執筆者名および所属：12pt

要旨：10pt（400 字以内，「要旨」という語の後に改行して記述）

キーワード：10pt（5 項目以内）



2. 原稿の区切りと見出し

原稿は章、節、項などに区切る。

章の見出し番号は通し番号とし、行の左に置く。節の見出し番号は「1.1」「1.2」とし、項を設ける場合は、「1.1.1」「1.1.2」とする。

見出しの前には空行を1行入れる。

3. 図表

原則として、本文中の必要な位置に図表を入れる。

図表には「図1」「図2」「表1」「表2」等と10ptでタイトルを付ける。

図表中の文字は、原則として9pt以上の大きさを使用する。

図表の前後には空行を1行ずつ入れる。

4. 表記

原則としてローマ字はヘボン式を用い、アルファベットは半角文字、数字は算用数字を使用する。

5. 引用・文献表示

引用・文献表示する時は、文中では「坂本（1993）」、「Bialystok（1981）」のように書き、論文末に参考文献の形で詳しく記す。（文中のカッコには原則として全角カッコを使用）文献の著者が2名の場合には、日本語文献にはナカグロ「・」を、英語文献には「&」を用いる。例：迫田・細井（2018）、Gass & Ard（1984）

著者が3名以上の場合、日本語文献は「筆頭著者名＋他」と、英語文献は「筆頭著者名＋et al.」と記す。例：鎌田他（2009）、Barkhuizen et al.（2013）

カッコ内で文献を複数提示する時などは、（鎌田他, 2009; Gass & Ard, 1984）のように記す。直接引用してページ番号を記す時、著者名ともカッコ内提示では（Smith et al., 1999, pp. 20-21）のように、著者名の文中提示では「坂本（1993, p.127）」のように半角カンマで区切る。

6. 注

本文中に注を付ける場合は、該当箇所右端に上付き文字で通し番号「1, 2, 3」を付け、注の内容は論文末に記載する。（脚注機能は使わないこと）

論文末においては、注を先に、参考文献を次に記載し、資料がある場合は最後に付ける。

7. 参考文献

参考文献は日本語文献、英語文献、中国語文献等の順にまとめる。

日本語文献は著（編）者名を50音順に、英語文献はアルファベット順に記載する。

同一著者による論文が複数ある場合は、出版年月順に記載する。

一つの文献の情報が2行以上にわたる場合には、2行目以下を2字分下げる。

英語文献の記載方法はAPA Manual 7th editionに準じる。具体例を下記に示すが、詳細、例外についてはAPA Manual 7th edition（2019年出版）を参照されたい。

- 鎌田修・山内博之・堤良一（編）(2009). 『プロフィシェンシーと日本語教育』ひつじ書房.
- 坂本正 (1993). 「英語話者における『て形』形成規則の習得について」『日本語教育』80, 125-135.
- 迫田久美子・細井陽子 (2018). 「International Corpus of Japanese as a Second Language (I-JAS): 日本語学習者の言語研究と指導のために」『英語コーパス研究』15, 133-149.
- 長友和彦 (1995). 「第二言語習得における意識化の役割とその教育的意義」『言語文化と日本語教育』9, 161-177.
- Barkhuizen, G., Benson, P., & Chik, A. (2013). *Narrative inquiry in language teaching and learning*. Routledge.
- Bialystok, E. (1981). The role of linguistic knowledge in second language use. *Studies in Second Language Acquisition*, 4, 31-45.
- Ellis, N. (1994). *Implicit and explicit learning of languages*. Academic Press.
- Gass, S., & Ard, J. (1984). Second language acquisition and the ontology of language universals. In W. E. Rutherford (Ed.), *Language universals and second language acquisition* (pp. 33-68). John Benjamins.
- ※論文名、書名は最初の語の語頭だけを大文字にし、誌名は各主要語の語頭を大文字にする。
- ※書名、誌名とその号数はイタリック。出版社の所在地の記載は不要。

第32回第二言語習得研究会（全国大会）研究発表募集

下記の要領で、標記研究会の研究発表を募集します。どなたでも応募できます。ふるってご応募ください。

1. 日 時： 2021年12月中の、連続する土曜・日曜（調整中）
2. 会 場： 未定（オンライン実施の可能性あり。対面実施の場合、龍谷大学で調整中）
3. 発表形態と時間：
 - (a) 口頭発表（発表20分，質疑応答10分の計30分）
 - (b) ポスター発表（2時間程度）
4. テーマ： 第二言語，外国語としての日本語の習得研究（日本語以外の言語の習得に関する研究は，現時点では受理していません）
5. 応募期限： 2021年8月中旬（決まり次第，メーリングリストとwebページ上でお知らせいたします）
6. 採択通知： 2021年9月末を目途にメールで通知
7. 応募方法： 応募にあたっては以下の情報を提出していただきますが，詳細は後日webページにて発表します。
 - (a) 題目
 - (b) 要旨（問題の所在，先行研究との関連，調査・分析方法，結果・結論，引用文献一覧の5点を含むもの。図表の挿入も可。A4版1段組2枚以内，かつ3,000字以内）
 - (c) 発表者氏名・所属
 - (d) 既公開の論文や発表等との内容的重複の有無（ある場合は，その論文等の書誌情報とともに，今回の発表との相違点も明確に示す）
 - (e) 希望する発表形態
 - (f) 代表者連絡先

問い合わせ先：第二言語習得研究会 大会運営委員長 宇佐美 洋
メールアドレス： jasla.taikai.2020.2021@gmail.com

学位論文の情報募集

『第二言語としての日本語の習得研究』誌では、第二言語としての日本語の習得研究に関する学位論文（博士論文・修士論文）の情報を、随時広く募集しております。

学位を取得された方は、以下のフォーマットにご記入くださり、論文情報を、ジャーナル委員会委員長 奥野由紀子 (jasla.journal.23.24@gmail.com) 宛に、2021年10月15日までにEメールでお送りください（ファクス、郵便での送付はご遠慮ください）。日本国外で取得された学位も対象となります。

〔E-mail アドレス〕につきましては、当該論文の問い合わせ先として掲載いたします。
本誌にアドレス掲載不可の場合には、記入なさらないでください。

なお、次号第24号でご紹介するのは、2021年9月末日までに学位が授与された方の論文です。この時点で取得予定のものは該当しませんのでご了解ください。

いただいた情報は、『第二言語としての日本語の習得研究』「博士論文・修士論文紹介」欄に掲載させていただきます。掲載の可否はジャーナル委員会にご一任ください。

なお、語句や表記について、修正をお願いすることがございます。この点をご了承ください。

◆ 記入フォーマットと例

(1) 博士論文の場合

〔執筆者氏名〕 習得博子

〔E-mail アドレス〕 (本誌に掲載します)

〔論文題目〕 第二言語としての日本語の習得研究

〔キーワード〕 第二言語, 日本語, 習得研究

〔機関 (提出先)〕 ○○大学大学院文学研究科日本語習得学専攻
(専攻名までお願いします)

〔取得学位・年月〕 博士 (文学), 2021年3月

〔要旨〕 和文 1000字以内 (英文の論文の場合も要旨は和文でお願いします)

(2) 修士論文の場合

〔執筆者氏名〕 学習太郎

〔E-mail アドレス〕 (本誌に掲載します)

〔論文題目〕 第二言語としての日本語の学習過程

〔キーワード〕 第二言語, 日本語, 学習過程

〔機関 (提出先)〕 □□大学大学院教育学研究科日本語教育学専攻
(専攻名までお願いします)

〔取得学位・年月〕 修士 (教育学), 2021年3月